

二〇二四年四月 にはづ短歌会（第四百十八回）会記 森田幸子

にはづ短歌会は四月十三日大阪本苑にて開催

指導 浅田弘子先生開催

詠草 三十首、参加者十五名

小雨降るわが家の傍に媪ゐて痴呆症かと警察を呼ぶ 宇佐美賢治

春の日の苑の緋桜咲き盛り明日の観桜茶会待たるる 神門明子

夜店にて掬ひ帰りし金魚いま大きくなりて水槽に泳ぐ 宇佐美日出子

スーパーに「ばば」と書かれし大きい魚「じじは無いか」の声に笑ひ合ふ 浅田弘子

二十年前ともにパソコン学びし友と久々に会ひ子らを語りぬ 久井照子

復興の進まず友ら移り行くと珠洲の妹声詰らせる 高枝悦美

久々くぐしこ子湖の小雨にけふるを夫と眺め結婚五十年の早きを語る 増井さえ子

両陛下はふるさと輪島の朝市の焼け跡に長く頭垂れ給ふ 森田幸子

蔵の傍の花蘇芳の下ごさを敷き曾祖母と二人ままごとをしき 出口照代

放射能もれし春より十三年ふるさと福島にヒヨドリの鳴く 松本和子

海棠の赤き蕾のふくらめる枝に家主は名札付けをり 島村直子

あしたから強き風吹き春雷の鳴りてたちまち軒を壊しぬ 奈良典子

次々と白波の立つ琵琶の湖ガラス張りの部屋より倦まず眺めぬ 加賀見明男

久々に来し大阪城の西の丸に外国人らと桜見てをり 河原富久子

万祥殿に十三参りは初めてとわが孫の為祝詞あげ給ふ 田中文字